

星の子だより



第 21 号 2016 年 2 月発行
東北大学病院病後児保育室
星の子ルーム

一年のうちで一番寒さの厳しい 2 月。でも、ふと見上げると木々には小さな新芽が顔を出しています。春が近づいていますが、まだまだインフルエンザが流行する時期です。大人も子どもも重症化すると大変です。手洗い・うがいはもちろんですが、人混みを避け、十分な睡眠と栄養をとるよう心掛けましょう。今年もスタッフ一同、お子さんが安心して過ごせる保育室を目指していきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



病気のこいろいろ...



昨年は溶連菌感染症の患者数が過去 10 年間で最高に達したと言われ、星の子ルームでもこの病気で利用した児が多く見られました。今回はこの「**溶連菌感染症**」についてお話します。

実はスタッフの一人である私も昨年末に罹ってしまいました。家族に感染者がいましたが、私自身は発熱もなく、軽い咽頭痛ぐらいでした。しかし、検査をしたら陽性でした。軽い頭痛もあり、これも症状の 1 つだったのです。

「溶連菌感染症」は溶血性レンサ球菌という細菌による風邪です。溶連菌は口の奥(咽頭)で菌が増えて、喉の痛みや腫れが現れます。舌の表面にぶつぶつができる「いちご舌」は典型的な症状です。また子どもに多くみられる感染症といわれていますが、うつりやすいため大人でも罹ります。溶連菌感染症に罹った場合、抗生剤の内服が必要です。内服後すぐ症状は改善しますが、処方薬を最後まで内服しないと再発や合併症を引き起こすこともあります。また登園・登校・出勤の目安は治療開始から **24 時間以上経過**してからです。症状がおさまっても人にうつす可能性があります。

もし家族内で溶連菌を発症し、お父さん、お母さんも風邪症状がある時は溶連菌感染を考えて、検査をおすすめします。大人の場合症状が軽いため普通の風邪と思い、見逃してしまうことが多いようです。

もしかしたらと思ったら、ぜひかかりつけ医に相談してみてください。

～利用者の声～ 災害科学国際研究所 小野裕一さん

5歳の娘と3歳の息子の父です。夫婦で東北に勤務しておりますが、仙台には身寄りがありません。子供が病気になると夫婦どちらかが仕事を休まなければならないので、海外出張が多いので、妻に大きな負担がかかることがありました。星の子ルームは、本当に有り難いです。医学部の中にあるので安心ですし、いつも笑顔で優しいスタッフの皆さんに囲まれ、子供は病気でもないのに、「今日、星の子？」と聞いてくることもあるくらいです。



ほいくしつのように

食事編 (Part2)

星の子ルームにはこれからの時期、急性上気道炎はもちろん、感染性胃腸炎、RS ウィルス、溶連菌感染症など様々な症状のお子さんが入室します。私たちは食事を病気回復のひとつのめやすとしています。体調が悪い時はなかなか食べてくれず、心配になりますよね。しかし食べたくないのに無理に食べさせる必要はありません。重要なのは「エネルギーを消耗しないようにしてあげること」「水分を補給し、脱水症状を防ぐこと」です。体調が良くなれば食欲も自然と戻ってきます。星の子ルームでは食べる量はもちろんのこと、進み具合、食べる時の表情、飲み込み具合などで回復経過をみています。

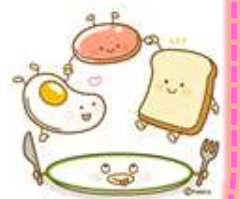


上手に食べれるよ!

自分で食べるとおいしいね



乳幼児期の食事は、食習慣の基礎を確立する時期であり、自立(ひとり)食べるの練習期でもあります。食べさせてもらっていた時期が過ぎ、ちょうど「イヤ」「ダメ」「自分で」を連発するなど、自我が芽生え始める時期と重なります。この時期の食事は格闘技のレベル。ついつい大人の感情が先になり、忙しさのあまり待つことが出来ず、食べさせてしまったり、手づかみ食べを怒ってしまったりすることがありませんか。このようなことが続くと自分で食べるという意欲がなくなってしまいます。これも子どもの成長段階なんです。座って食べることから始まり、手づかみ食べ、スプーン、フォーク、箸へと段階を踏んで進んでいきます。特に朝の忙しい時間は少しでも食べて欲しいという思いから、ついつい食べさせてしまいますよね。その方が周りも汚れなくてすみます。朝が無理ならせめて夕食時だけでもゆったりとした気持ちで見守ってあげてください。親が一生懸命になりすぎると、かりかりしてしまいがちなので、「まっ、いっか！」くらいの気持ちを持つことも大切です。



避難訓練に参加しました!

昨年 10 月 31 日(土)東北大学病院総合防災訓練に参加しました。今回の訓練では、星の子ルームスタッフ 4 名、預り児 2 名を想定して行いました。星の子ルーム専用の避難場所として確保された外来診療棟 C2 階処置室の 1 室に子ども 2 人をおんぶし、避難リュックも持ち出して、安全に移動することができました。

実際に避難が必要な場合

外来診療棟 B 1 階のキャンサーボード室に外来支部が設置されます。

当日の被害状況によって避難場所が決定しますので、地震などで避難が必要となった際は、その外来支部で星の子ルームの避難場所をおたずねください。変更があった場合は随時お知らせいたします。



◎予約・問い合わせ 022(717)7819

◎メールアドレス hoshinoko@grp.tohoku.ac.jp

◎ホームページ <http://www.morihime.tohoku.ac.jp/hurdling/hoshi.html>